

2024年度 中東☆イスラーム教育セミナー（第20回）

日時：2024年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

國枝奈未（東京外国語大学総合国際学研究科博士前期課程）

まず、この度の中東・イスラーム教育セミナーの開催にご尽力いただいた関係者の皆様に深くお礼申し上げますとともに、こうした貴重な機会に参加させていただき誠にありがとうございました。私は研究発表を行いませんでしたが、4日間を通して得られた学びや気づきについて、感想を述べさせていただきます。

私の研究対象は20世紀初頭のイラン立憲革命期の議会（マジュレス）であり、当時の議事録や新聞を用いて研究を行っております。今回のセミナーにて非常に新鮮であったのは、普段参加する中東地域やイランに関する研究会とは異なり、イランを専門とする発表者がいらっしやらなかったことです。そのため発表内容はアラブ・トルコ地域に関するものが中心であり、知識が乏しいが故に内容を理解することだけで精一杯な部分がありました。しかしながら、専門外だからこそより普遍的な視点から物事を捉えることができ、またそこから得られた気づきや学びが多くありました。今後自分が研究発表をする際には言葉選びや構成により一層注意を払う必要があると強く思います。その他にも、今回のセミナーを通して十分検討していかなければならないと感じたのは、研究の実現可能性と扱う史料の信頼性についてでした。これは私のディシプリンが歴史学であり、一次資料の扱い方が特に重要であるためです。膨大な量の史料とどのようにうまく付き合うか、それらの信憑性をどのように証明するかが今後の課題になりました。

また、自分の研究分野に関わらず、同じ中東地域やイスラーム文化圏を研究対象とした同年代の大学院生が全国から集まり、意見を交わすというだけでも非常に大きな意義があったと感じております。特に、学外の大学院生と交流する場は非常に貴重です。初日と最終日での懇親会や、合間の休憩時間などにお話を交わすことは想像以上の大きな刺激になりましたし、今後の自分の研究に関してはもちろん、より深い研究の世界に触れることができることは本セミナーならではの経験であったと思います。

最後に、本セミナーの開催に携わったアジア・アフリカ言語文化研究所の先生方や関係者の皆様、多くを学ばせていただいた参加者の皆様に重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。